

団体名・グループ名

あんず保育園ホタルンジャー

審査委員の評価のポイント

保育園児がホタルの飼育から放流、鑑賞会などを継続して実施しており、幼い時から自然と密接にふれあう貴重な体験は、環境教育として高く評価された。地元の農林課の行事にも参加するなど、地域とのつながりもあり、特に、保育園児ができる範囲で様々な取り組みをしていることは、全国のホタルンジャー活動の励みとなると思われる。

活動の場所	活動したこどもの人数
園庭に流れる「ほたる川」	60人
生き物いっぱい田んぼの用水路	活動したこどもの学年
	1歳児から6歳児

活動継続年数	主な受賞歴
5年	ホタルンジャー奨励賞

活動グループ(学校・団体)の紹介、活動頻度

あんず保育園は、日本一のあんずの生産地「森の杏」の里にあり、周りにはあんず畑や田んぼもありますが、住宅も増えてきています。昔からの自然も身近に残されていますが、小さな園児達が自由に自然に触れることは難しいです。環境保育の一つとして、身近な自然に触れようと園庭を流れる「ほたる川」でホタルを育てる活動をしています。6歳になる年長さんになると、「ホタルンジャー」になりほたる川の草取り清掃、幼虫の飼育をして放流をし、「ほたる祭り」を開きみんなでホタルを見ます。幼虫を育てる水槽にカワニナをとってきては入れたり、水換えをしたり一年通してホタルと関わっています。近くの川の小さな生き物たちともかかわって遊んでいます。

活動の概要(活動の経緯も含めてご記入ください)

前年度の年長さんが育てたホタルの幼虫を、4月に「ほたる川」に放流し、草取りや清掃をしながらホタルが飛ぶのを待ちます。ホタルが飛びはじめると夜みんなで集まってホタルを見ます。飛んでいるホタルを捕まえて、卵を産んでもらい、また幼虫を育てます。水槽の掃除をしたり、餌のカワニナを捕まえたり、小さな子でもできる範囲で活動します。ホタルを見る「ほたる祭り」では園児はお家の方たちと一緒に集まり、みんなでホタルを鑑賞します。今年は、お家の方たちにアンケートを取り、あんず保育園の周りでは、どんな範囲でホタルが見れるのか調べました。むかしは家の中にいても、庭でホタルが飛んでいたそうですが、今は、保育園に来ないと見られないという答えが多く、園児、保護者は、「ほたる祭り」に期待していることがわかりました。わき水が流れる「ほたる川」が園庭にあるので幼虫を育てられますが、水が流れなくなったら育てることができません。そこで、水を大切にしようと山に植えるドングリの木を育てる「ドングリ大作戦」に参加しました。ドングリを集めて、ポットに植えてドングリの苗を育てています。「生き物いっぱい教室」では、身近な小さな生き物に触れたり、グループの方に生き物のことや自然のことを教えてもらっています。

◆この応募用紙は、活動をした子どもたちの保護者や先生等、大人の方が記入してください。

団体名・グループ名

あんず保育園ホタルレンジャー

活動の場所(様子や環境など)

園庭を流れる「ほたる川」

「生き物いっぱい田んぼ」の用水路

タイトル

私たちの周りにいる小さな生き物たちを大切にしよう。

活動を始めたきっかけ(興味を持ったことなど)

去年の年長さんがホタルの幼虫の世話をして育てたホタルを見てとてもきれいだったので、自分たちも、幼虫を育てられたらいいと思った。

「ほたる祭り」でお父さんやお母さんがホタルを見て喜んだので、今年も見たいと思った。

活動の目標(やってみたいと思ったことなど)

ホタルレンジャーになってホタルの幼虫の放流をやってみたい。

生き物いっぱい教室で、いろいろな生き物を捕まえてみたい。

ホタルの幼虫を育ててみたい。

保育士の願い

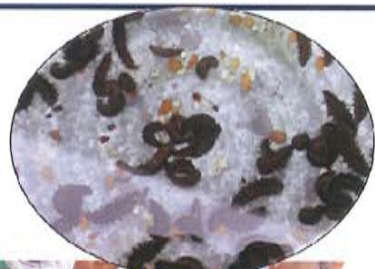
ホタルレンジャーの活動を継続することで、「去年も見て、今年も見れた」という言葉が子どもたちから聞かれ、体験の積み重ねの大切さを感じている。身近な自然に関心を持ち、大切にできるようになってほしいと願って活動を続けています。

活動の内容や調べたこと、写真やイラスト(自由記入ノート)

去年の年長さんが育てた幼虫を水槽から出してみたら、こんなに大きくなっていました。
 ほたる川に放流することにして、水槽から幼虫を全部とりだすために
 水槽の水をくみ出し、幼虫を探しました。

4月6日 大きな幼虫は100匹いました。小さな幼虫は
 まだ水槽で飼うことにして、「ほたる川」に放流しました。
 早くホタルになって飛んでくれるといいなと思いました。

早くホタルに
 なってね！



6月14日 昨日はホタルが飛んだと先生がお話しました。

6月19日 先生が夜捕まえておいたホタルを部屋を暗くして
 見せてもらいました。光るのがとてもきれいで、じっと見つめ
 ました。早く飛んでいるのが見たくまりました。

ほたる祭りを開く準備を始めました。ホタルをみんなで見るのを
 楽しみに、「ほたるこい」の歌を歌ったり、ちょうちんを作りました。

6月23日 「ほたる祭り」を開きました。お家の人や、小さいお友達も
 たくさん集まって、みんなでホタルを見ました。

ホタルは、とてもきれいでした。今年もホタルが見れてうれしかったです。
 飛んでいたホタルは少し捕まえて、卵を産んでもらうことにしました。

卵をたくさん産んでももらいました。



ほたる祭りには100人ぐらい集まりました。

7月23日 ホタルの卵がかえって、小さい幼虫が生まれました。

水槽に放して、また幼虫を大きくすることにしました。

拡大鏡で見ました。

水槽の掃除をすると、春小さかった幼虫が、大きくなっていたので、「ほたる川」に
 放しました。来年の夏に、またほたるになって飛んでほしいと思いました。





8月 「ほたる川」の水がすくなくなっていました。

セリが大きくなってしまい、水がうまく流れなくなっていたので、セリを減らして水が流れるようにしました。

夏に、雨が降らなかったのも、ほたる川の水が少なく、毎日見に行って、心配をしました。

でも、水が乾いてしまうことはなく、流れていたのできっとホタルは生きていたと思います。

11月8日 農林課の方たちと、「ドングリ大作戦」でドングリをポットに植えました。

「ドングリの木は、山に水をためてくれるので、きっと、ほたる川の水もきれいになると思います。」とお話を聞いて沢山植えました。

ドングリを山に植えられるのは2年してからなので小さいお友達が大きくなってから植えればいいと思いました。



12月 水槽の中で、幼虫が大きくなっていました。カワニナも減ってきたのでまたとってきましたが、幼虫がどんどん食べるので、すぐにいなくなってしまう。時々、〇君のおばあちゃんが田んぼからカワニナをとってきてくれるので水槽に入れています。僕たちにはあんなにいっぱいとれないので、幼虫も大喜びだと思います。

幼虫は大きくなって、また「ほたる祭り」ができるといいなと思います。

◆この活動レポート用紙は、活動をした子どもたちが中心に記入してください。

活動で工夫したこと、困ったこと

- ホタルの幼虫は、触る時ちょっと怖かった。でも、そっと手にのせたら大丈夫だった。
- カワニナを捕まえるのが、大変。たくさんとらないと、みんな幼虫が食べてしまう。
- 「ほたる川」の水が、少なくなると、幼虫が大丈夫かな、と心配だった。
- ホタルが光るのは夜なので、いつも見られなくて残念だ。

- カワニナの手入れは、子どもと保育士だけでは足りず、気づいた園児のおばあちゃんがたくさんとってきてくださり幼虫を育てることができた。餌の確保が難しい。
- 保育園の周りは、住宅があり夜はなかなか暗くならない。やはり暗くないとホタルが飛ばず、繁殖にも影響があると思う。ほたる祭りの時だけは、自動販売機に暗幕をかけるなどして暗くしているが、夜の明るさは止められない。

活動で気づいたこと、感じたことやおもしろかったこと

- 年中さんの時を見て、年長になっても見れてとてもよかった。
- 卵を産むと、ホタルは死んでしまうのでかわいそうだった。
- お父さんやお母さんがホタルを見て喜んでいたのでよかった。
- 川の水はとても冷たく、こんなところに幼虫がいるんだと思った。
- 生まれたばかりの幼虫はとても小さく、拡大鏡でないと見れなかった。小さくてびっくりした。
- ドングリが大きくなって山に植えたら、ほたる川の水も、もっときれいになると思う。

活動からわかった課題、自分たち「こどもホタルレンジャー」にできること

- 幼虫を育てたり、放流するのは先生や年中さんと一緒にできる。
- 幼虫の餌のカワニナはたくさん集めるのが大変で、お家の人にも手伝ってもらいたい。
- 「ほたる川」の水がいつもきれいで、流れているようにしていきたい。

大人の人と一緒に、改善していきたいこと

- 保育園だけでなく、いろいろなところにホタルが飛ぶといいと思う。
- ホタルはこの地域でどのくらい飛んでいたのかを保護者対象にアンケートをとってみました。
 - 1960年代には家の中にいても庭を飛んでいた。見ようと思わなくても見れた。
 - 1970年中小河川が三面側溝になり始めるとホタルが減ってきて今は沢山川の上流に自然発生のホタルを見るだけである。
 - 保育園のほたる祭りでしか見たことがない。
 - 保育園の周りの川を飛んでいるのを見た。(ほたる川の下流)
 - 今年は、保育園の周りで2.3匹見ました。
 - 1980年ごろは、家の近くの川に2～30匹飛んでいた。
 - 今もホタルが見れるところは、山際の暗い所と、ホタルの会の方が保護をしているスケッチパーク。
- 保育園でホタルレンジャーの活動を始めてから、保護者も興味を持ってくれるようになり、子どもたちと一緒にほたるを見ることを楽しみにしてくれています。子どもたちだけでなく、保護者も一緒に活動がしていけたら、自然を見直す機会になるのではと思います。
- 「ほたる川」は自然のわき水が流れてきているので水源は特定できず、水が流れてくれている間は良いのですが、心配です。ホタルを飼育できる水がいつも流れてくれることを願っています。「ほたる川」を保護できるようにしたいです。

「地域の水環境調べ・テーマ活動」(テーマを選択して記入※ぜひ、いずれかのテーマ活動に取り組んでみて下さい。)
水中の生き物を調べてみよう！

テーマ活動の内容・結果

「生き物いっぱい教室で、小さな生き物たちを見つけたよ」 7月25日・10月22日
農薬を使わない田んぼを作っているグループの方に生き物いっぱい教室を開いてもらい
小さな生き物を捕まえたり調べたりして遊びました。いろんな生き物がたくさんいて
楽しかったです。保育園に持ち帰って生き物いっぱい水族館を開いてお母さんたち
に見せました。生き物いっぱい教室の先生に教えてもらったり、図鑑で名前を調べて
面白かったです。生き物博士の西村さんにいろいろ
教えてもらいました。

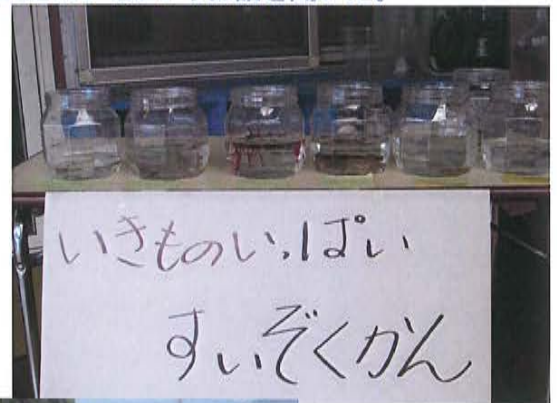
川にいた小さな生き物は、ヘビトンボの幼虫
ドジョウ、ヤマトシジミ、アメンボ、カワニナ、みずすまし
サワガニ、おけら、クサグモ、ヒラタグモ、ジョロウグモ
アメリカザリガニ、しょうりょうバッタ、くるまバッタ
トノサマバッタ エンマコウロギ、かまきり、にほんかなへびでした。

たくさんの小さな生き物たちと友達になりました。みんな、水草や、泥の中、葉っぱの陰にいました。



テーマ活動からわかったこと・考えたこと

- 川の中には、泥、石、水草があってその陰に小さな生き物たちが住んでいた。
- 生き物いっぱい田んぼでは、農薬を播かないので川に生き物がたくさんいるという話を聞いた。
- 小さな生き物たちの赤ちゃんは透き通っていた。
- 他の川では、なかなか生き物を見つけることができなかった。
- 生き物がいっぱいいる川が増えるといいと思った。
- 水はきれいでも、生き物たちが住むには、草がないと
生きられないと思った。



◆この活動レポート用紙は、活動をした子どもたちが中心に記入してください。